九州地整「土木の日２０２６」パネル展＆体験イベント開催
土木の魅力を発信し活動している、デミー博士とマツ博士に感謝状



中央からマツ博士（左）、デビー博士（右）のキメポーズで記念写真

九州地方整備局は、５日、福岡市博多区の福岡第２合同庁舎１階ロビーで「土木の日」関連イベントを開催した。パネル展＆体験イベントの他に、ＶＲ体験コーナーの設置と、土木分野の魅力発信に取り組むデミー博士とマツ博士への感謝状贈呈式を行った。



営繕部の公共建築の日

同局は１１月１８日の「土木の日」に合わせ、４日から２０日まで（土日祝日を除く）、午前９時１５分から午後６時まで同会場で展示を行っている。会場には、道路、河川、営繕、建政部など、各部の事業や防災・減災の取り組みを紹介する４０点を超えるパネルやサイネージを展示。令和８年熊本地震の活動記録動画配信や、インフラカード、ペーパークラフトの無料配布も行っている。



土木の役割や防災・減災の取り組みを紹介

５日に設置されたＶＲ（仮想現実）体験コーナーでは、普段は見ることのできない港湾のガントリークレーン内部、技術者による操作の様子や、地上約４０メートルからの眺めを疑似体験できる。また、桜島の大規模噴火をテーマにしたＶＲでは、目の前に広がる黒煙や噴石の飛来、噴煙に伴う雷などを再現し、噴火災害の恐ろしさを伝えた。



マツ博士（左）、デミー博士（右）



挨拶する飯島企画調整官

また同日、飯島直己企画調整官から土木分野の魅力発信に取り組む「噂の土木応援チーム　デミーとマツ」の活動に対する感謝状が贈られた。飯島企画調整官は「今回の展示では公共建築をはじめ、九州各地の事業や災害対応、インフラＤＸ・ＡＩ技術の活用などをパネル展では紹介している」と同局の取り組みを説明。デミー博士が高校生の視点で土木の魅力を紹介する「青春ＢＵＩＬＤ」と、マツ博士が部員として活動している「土木写真部」のコラボ展示についても触れた。「私自身も以前、八代河川国道事務所に勤務していたので、坂本橋（熊本県八代）を見て懐かしく感じた。今後も地域社会を支える活動に力を合わせていきたい」と述べた。

感謝状を受け取ったデミー博士（出水亨氏）は、「デミーとマツを結成して１０年を迎え、この記念の年に感謝状をいただけたことを大変ありがたく思う。これまで取り組んできた活動を少しでも認めていただけたと感じている。今後も皆さんと引き続き土木を応援し合える関係を築いていきたい」と話した。

マツ博士（松永昭吾氏）は、「九州地方整備局の皆さんとは、九州川の風景フォトコンテストや、さまざまな災害現場で職員や建設業者の方々の活動を記録・発信するなど、未来につなげる取り組みを進めてきました。今後も力を合わせ、土木・建設業界を一層盛り上げていきたい」と述べた。

「噂の土木応援チーム デミーとマツ」は２０１６年、日本の土木が果たす役割や大切さを子どもたちに伝えるため、工学博士と土木技術者の２人で結成したユニット。